

# 令和元年度 事業報告書

- (1) 学校目標に基づく優先課題
- (2) 教育の充実
- (3) 学生募集
- (4) 学生支援
- (5) 就職支援
- (6) 教職員組織
- (7) 施設・設備
- (8) 武蔵野ネットワーク
- (9) 地域貢献・社会貢献

武蔵野栄養専門学校

## 《概要》

### (1) 学校目標に基づく優先課題

#### 学校目標

「人格教育と実践的な職業教育により、社会に有為な栄養士を育成する」

1年次（人格教育、基礎的知識の習得）、2年次（実践的な職業教育）により資質の向上を図ることを目標に教育活動を実施した。

人格教育委員会の主導のもと、学生一人ひとりの人格を育てるための動機付けとして毎月10徳の1つを取り上げたポスターを掲示した。基礎学力演習において国語・数学・化学の振り返りや、理解を深めるための繰り返しの指導を行った。2年次は企業等から講師を招いた選択コースの実施や、栄養士業務の根幹となる校内実習の充実を図った。

### (2) 教育の充実

「知識・技術ともに兼ね備えた栄養士」を輩出することを最終目標に置き教育の充実を図っている。栄養士実力認定試験ではA認定の割合が50.6%から56.4%へと増加したが全国平均の63.2%には及ばなかったため、今後も取り組みを強化していきたい。

第三者評価を受審しすべての項目において「可」の評価を受けることができた。

### (3) 学生募集

令和2年度は東京都専門人材育成訓練生を20名受け入れているが、その人数を差し引いても出願者数は昨年度160名から今年度165名と微増させることができた。

将来構想部会によるSNS対策を強化し、入学希望者に対して魅力のある学校PRが実施できるよう努めていく。

### (4) 学生支援

全体の退学率は4.7%と目標以内を達成できたが、1年次の退学率は7.1%と目標を超えている。1年次の退学理由として最も多かったのが進路変更（4件）、次いで健康上の理由（3件）であった。

### (5) 就職支援

栄養士業務はいわば、「売り手市場」の状況が続いており、就職希望者155名に対して求人者数は1,000名程度あり、100%の就職率となった。資格を生かした業務への就職は155名中149名で96.1%と高値であった。

(6) 教職員組織

組織の総員は32名だが、産育休中の教職員が前期2名、後期3名おり、実質的な人数は不足している。

教務部は教務課、SS課、実習・実験課と分掌されているが、その業務内容は重複し複雑であるため、令和2年度より分掌組織を改訂し、適切な業務分担の実施を図る。

(7) 施設・設備

学園による施設不備一覧をもとにした施設の修繕が継続中である。

第三者評価により、学内の施設設備不備が指摘されたため、今後は栄養士養成施設として厳守しなければならない設備の整備を実施していきたい。

(8) 武蔵野ネットワーク

卒後支援対策として管理栄養士国家試験対策講座を継続した。

卒業生との連携として、卒業生懇談会、体験入学「卒業生を招いて」を実施し、情報交換等協力体制を構築している。

(9) 地域貢献・社会貢献

「子ども食堂」へのボランティア参加、豊島区等への地域貢献活動も継続して実施している。社会貢献活動として集団給食協会と共同したイベント等も行っている。

\* 数値は小数第2位以下を切り捨てて表記

## (1) 学校目標に基づく優先課題

### ①令和元年度学校目標

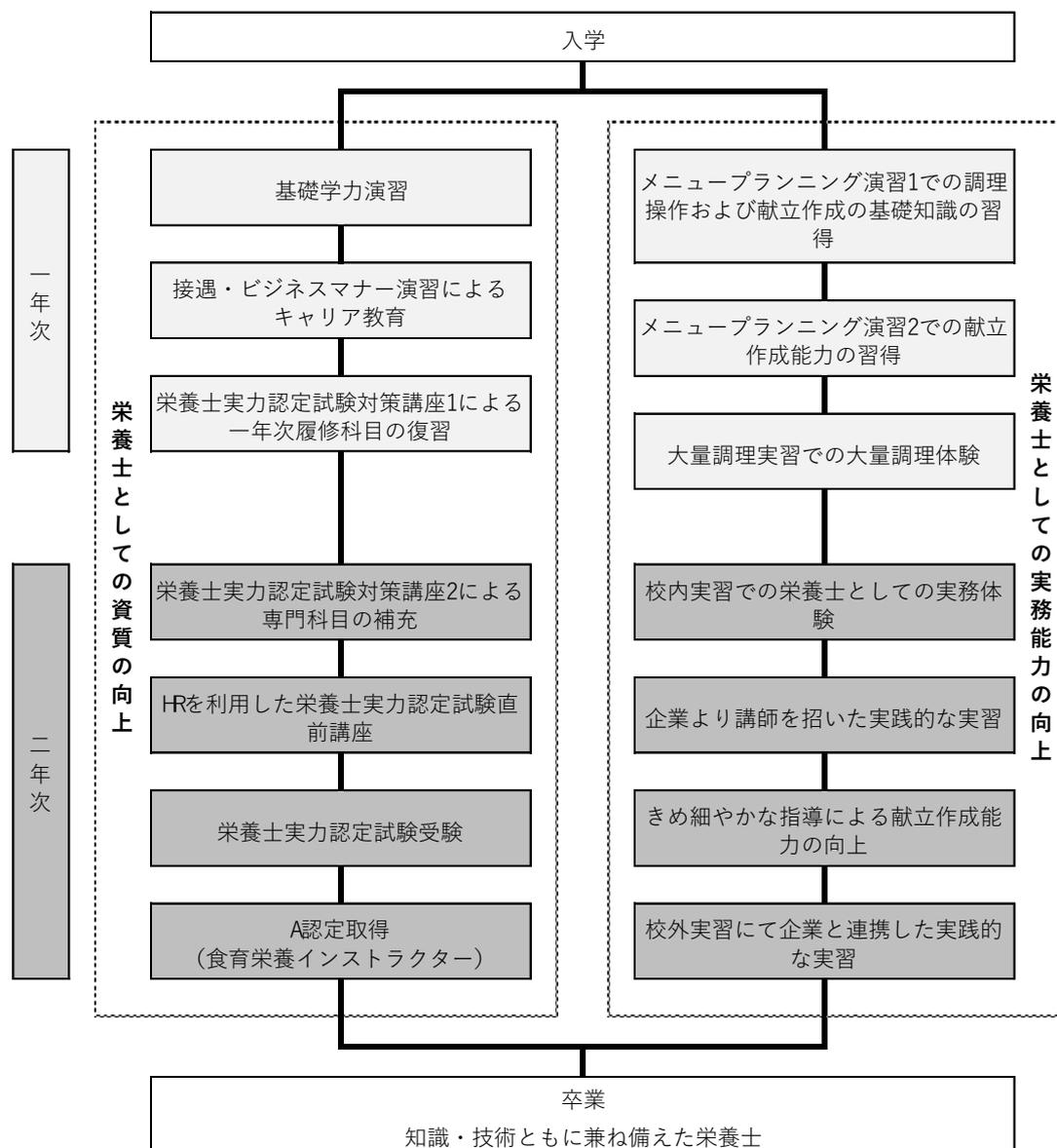
「人格教育と実践的な職業教育により、社会に有為な栄養士を育成する」

### ②同目標達成のための優先課題への取り組み

学生募集では、18歳人口が減少する中、入学対象者は現役生のみならず標的の幅を広げる必要がある。このような状況の中、令和元年度は東京都専門人材育成訓練の受託校として10名の訓練生を受け入れた。年齢層も幅広く、志が高い人材が多いため、他のクラスメイトにも良い影響を与えている。令和2年度は人数を増やし、20名の訓練生を受け入れている。

就職支援に関しては、栄養専門学校内に就職担当者を配置し、学生への支援を強化した。これまでの法人事務局所属の栄養専門学校専属就職担当者は、東京都人材育成訓練生のキャリアコンサルティング業務と主に保育園希望者に対する支援を実施、2名体制での就職支援により希望者に対し100%の就職率を確保した。

## (2) 教育の充実



### ①育成する人材像

「知識・技術ともに兼ね備えた栄養士」を育成人材像とし、教育の充実を図った。  
 栄養士としての資質の向上のため栄養士実力認定試験を2年生全員が受験、88名がA認定・食育栄養インストラクター資格を取得した。  
 メニュープランニング演習1・2における献立作成、大量調理・校内実習における栄

養士としての実務を強化し、能力の向上を目指した。

接遇ビジネスマナー演習の他、少人数制の就職セミナーを開講し就職担当者との連携の下、キャリア教育の充実を図り、結果、就職希望者 100%の就職率を収めた。

## ②教育のプロセス

栄養士実力認定試験対策講座は1年後期（栄養士実力認定試験対策講座1）から2年前期（栄養士実力認定試験対策講座2）までの1年間で、14科目の試験対策を行い、2年後期にはHRを利用し直前対策も実施している。

対策を強化した結果、一旦下降したA認定取得者をここ2年間で増加させることができた。将来的には全国平均レベルまで上げることを目標としている。

また、実務面では課題対応力を伸ばすため、複数科目にて献立作成課題を課している。2年次に多くの課題が与えられると対応できず欠席過多や、授業に集中できない学生も多いことから、1年次のメニュープランニング演習にて献立作成の基礎力を一層強化し、令和2年度の授業内容は、より献立作成に重点を置いたシラバスへと変更する。

## ③特色ある教育活動

本校の教育内容の特徴として「大量調理実習」「校内実習」が挙げられる。

「校内実習」「大量調理実習」は、栄養士業務についての理解を深めるという目的とともに、教員と学生が【給食の提供】という1つの目的に向かい協力して取り組んでいる。この授業は、グループでの共同作業をしながら、限られた時間内に給食を作り上げるという課題を学生自身が考え、解決させるといった主体的・協働的な学習である「アクティブ・ラーニング」実践の場となっている。

1年後期「大量調理実習」での調理技術の向上から2年前期「校内実習」での実務能力の向上へとステップアップしながら給食業務及び栄養士業務への理解を深めさせるとともに、喫食調査や反省会、事前演習・事後演習での意見交換や発表を通してコミュニケーション能力の向上を図った。

セレクトメニューでは数種類の調理を同時に行うことで、より現場に即した調理技術を学ぶとともに、「自分の作成した献立が人に選ばれる」という充実感や達成感、「選ばれるためにはどのようにすればよかったのか」といった改善点を学ばせ、喫食者の食事の選択肢を広げ、満足度の向上につなげることができた。

## ④外部との連携

職業実践専門課程として認定されており、教育水準の維持・向上を目指し、企業と連携した実習・演習等を取り入れ実務能力の習得に努めている。

校外実習では、企業・病院・保育園・高齢者施設などにおいて実習生の受け入れを依頼

し、実際の現場に入って調理作業や事務作業など、特定給食施設における栄養士業務についての実習を行っている。

また、大量調理実習では、最終授業において進級後すぐに開始する就職活動を視野に入れ、企業のトップの方々を講師に招いた授業を実施し、質の高い給食サービスを提供するためのノウハウや栄養士としての心構え、実際の現場における栄養士の役割、仕事内容等についての理解を深めた。

### (3) 学生募集

#### ①入学定員及び学生数

学科	修業 年限	入学 定員	入学 者数	収容 定員	在籍者数		
					計	男	女
栄養科	2年	240	166	480	335	56	279
武蔵野栄養専門学校		240	166	480	335	56	279

\* 令和元年5月1日現在の数値であり、学校基本調査（文部科学省）の数値と一致する。

#### ②オープンキャンパス歩留率等

##### (a) 具体的な取り組み

入学希望者の求める本校の募集活動について把握するため、毎年入学者に対しアンケート調査を実施している。

学費・就職・奨学金についての情報を求める保護者が多いことから、教職員の考案で体験入学の際に、保護者対応の時間を設けている。

また、短時間に終了する学校説明会を求める参加者の声から、午前中で終了する見学説明会の回を設けた。

##### (b) 目標達成状況

入学を決めた理由としては、「1位 雰囲気よかった(32%)、2位 設備(27%)」であり、これまで同様、学校や教職員の雰囲気が入学決定の理由となっていた。また、「学校を決めるにあたり何を参考にしたか」という問いに対しては、「体験入学への参加によって最終的に学校を決定した」が39%、次いで「学校見学」24%と回答しており、実際に「自分の目で見ること」で最終決定に至っており、入学希望者が来校した際の教職員の対応には細心の注意を払った。

##### (c) 課題

近年の体験入学時には在校生に協力を仰ぎ、入学希望者の目線でコミュニケーションを取るよう心掛けている。「体験入学に参加してよかった点」として「在校生との交流」を挙げている参加者も多く、今後も継続していくとともに、一定レベルの対応ができるよう在校生ボランティアへの教育も必要となる。

#### ③ガイダンス・授業依頼対応・見学者対応

「ガイダンス・授業依頼対応」に関しては、法人事務局広報部からの依頼により実施し

た。また、「見学者対応」は通常業務があり担当できる教職員に限られるため、曜日により担当者を振り分け対応した。

通常授業が行われている平日は十分に見学ができないため、実習室・実験室ごとの授業内容をタブレットに収め、それを活用し学校見学を実施した。

より視覚的な授業紹介ができるよう、将来構想部会を中心に次年度以降使用する各実習・実験室や授業の映像を作成している。

#### ④広報部との連携

毎年、年度初めにはカリキュラムや教育についての共通理解を図っている。

また、毎回体験入学実施の数日前には広報部の栄養専門学校担当職員と綿密に打ち合わせを行い、体験の内容やタイムスケジュールなどについても共有している。

より広報部と連携した募集活動を行うため、令和2年度より分掌に募集情報課を組織し、学生募集に取り組む。

## (4) 学生支援

### ①退学率

#### (a) 具体的な取り組み

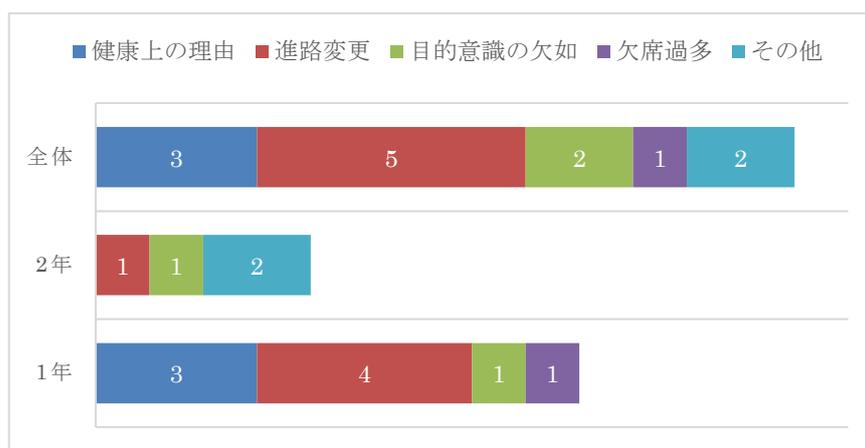
担任が一人ひとりの学生と向き合い、指導・支援を続けた。

退学を防ぐためには早期の対策が重要である。資格取得や勉強に対して意識の低い学生にはメンタル面のフォローが重要であり、担任は、個別面談等を実施し、学生一人ひとりに合わせて柔軟に対応している。担任以外でも全教職員が、学生の言動や行動に目を向け、見守り、声かけなどを行うことにより、退学者の減少を図っている。

#### (b) 目標達成状況

学生相談の充実を図るため、カウンセリングの活用や、教職員のなかでも相談窓口を置き、学生にとって相談しやすい環境を整備した。

### 令和元年度の退学理由



#### (c) 課題

明確な目的を持たずに入学し、勉強することの意義を理解できず学習意欲を喪失し退学する学生も増えている。また、「経済的理由」の場合は退学意志が覆ることは困難である。

本校の強みとして「教職員と学生とのつながり・面倒見のよさ」がある。出欠席の状況については、担任だけでなく各教科に関わる教職員で共有し、全教職員で学生を支援していく体制を整えている。退学を申し出た学生に対しても、特別な場合を除いて担任が面談を行い、保護者の意思確認の上、退学届を受理しているが、担任以外の管理職者が再度面談を行い栄養士の資格取得意義など担任とは違う視点からアプローチを行い、退学者を減らす取り組みを行っている。

## ②生活指導

SS課では各月別に強化目標を提案し、社会人基礎力及び集団生活の意識向上を図った。また、特殊事情を抱える者についての情報把握・共有を強化するため、情報が更新されると適宜職員にメールで通知が届く監視システムを導入し、全教職員が共通理解の上、学生指導に取り組んでいる。

## ③資格取得

資格	受験(受講)者数	資格取得者	割合
栄養士	卒業生数 161 名	161 名	100%
フードコーディネーター3級	29 名	28 名	96.6%
フードアナリスト3級	9 名	6 名	66.7%
NR サプリメントアドバイザー	2 名	0 名	0%
食育栄養インストラクター	156 名	86 名	55.1%

食育栄養インストラクターは栄養士実力認定試験において認定Aを取得した者が申請できる資格であり、令和元年度は88名中86名が取得した。

A認定取得者を増やすため、栄養士実力認定試験対策講座1・2及びホームルームでの直前講座等を行っている。

フードコーディネーター3級・フードアナリスト3級・4級は食に関する知識を深める資格であり、栄養士の教育内容と重複する部分もあり、就職等においてもプラスになると考えられ、これまで継続してきたが、年々受講人数の減少も見られ、学外での取得も可能なため、今後の開催については検討中である。

## ④学生満足度

学生満足度を計るために、学期ごとに「授業評価アンケート」を、卒業時には「学生生活アンケート」を実施している。授業への満足度向上のためにも、授業評価アンケートの結果については各教員へのフィードバックが必要であるため、校長主導で集計業務を実施しフィードバック体制を整え、年度末の講師会において実施した。

⑤課外活動

研究内容	研究員数	担当教職員
醤油	1名	池田 浅香 藤岡
酵母	1名	
大豆粉	1名	坂井 坂口 角野 鈴木

近年の実務能力の低下への対策として前年度に引き続き、学生に料理への興味・関心を持たせることを目的に、「料理クラブ」を開催した。放課後の自主練習の場として様々な料理を作成、他者との出来栄の比較や発表なども行い、学年を超えたコミュニケーションの場としても活用した。

令和元年度 料理クラブ実施状況

日付	内容	人数
4月23日	卵料理について	1
5月28日	ハンバーグについて	10
6月5日	切り方について パート1	10
6月28日	切り方について パート2	15
7月3日	切り方について パート1	6
7月28日	切り方について パート2	22
9月30日	和菓子に挑戦	8
10月29日	かぼちゃのデザート作り	16
11月13日	クリームシチューを作ろう	20
11月29日	いい肉の日 とんかつを作ろう	20
12月17日	ハンバーグを作ろう 第2弾	10
12月23日	簡単クリスマスデザート作り	13
1月10日	バレンタイン目前 チョコレートスイーツ	12
2月21日	中華料理 餡の包み方	20
	合計人数	183
	予算額	¥100,000
	執行額	¥94,589

## (5) 就職支援

### ①就職率

学科	修業年限	平成30年度					令和1年度				
		卒業 者	就職希望者		進学・ その他	(就職希望者 に対して) 就職率①	卒業 者	就職希望者		進学・ その他	(就職希望者 に対して) 就職率①
			就職者	未決定				就職者	未決定		
栄養科	2年	175	172	0	3	100.0%	161	155	0	6	100.0%
計		175	172	0	3	100.0%	161	155	0	6	100.0%

\* 就職希望者=就職者+未決定

\* 就職率①(%)=就職者÷就職希望者

\* 就職率②(%)=就職者÷卒業者

就職希望者 155 名に対し、求人のあった企業数は 390 社であり、就職率 100%の結果を残すことができた。

#### (a) 具体的な取り組み



上記の図のように、年々早まる就職活動時期に対応し、1年後期に授課・ビジネスマナー演習、卒業生懇談会、2年前期に学内企業説明会、就職セミナーを実施し、段階を踏んで就職への意識を高めるよう取り組んでいる。就職セミナーでは、企業（事業所給食）、保育園、病院など、分野や施設別の少人数制のグループ学習を実施し、学習成果を上げるとともに、コミュニケーション能力の育成を図っている。

#### (b) 目標達成状況

5月に開催する学内企業説明会では、採用内定実績の多い企業を中心に招き、30社

程度の企業の人事担当者から企業の特徴や業務内容、待遇、就職活動の方法などを直接伺うことができる機会となっている。学内で実施されるという安心感もあるためか、例年数多くの学生が希望し参加している。企業側の採用の意欲も高く、その後の就職活動を行う上でプラスとなっている。

結果的にも就職希望者に対する就職率は100%という結果になった。

就職を希望しなかった者は6名で、うち2名は進学している。その他はアルバイト先への就職1名、体調不良1名、モデル活動1名、高齢のため就職せず1名となっている。

### (c) 課題

学生個々の適性を見極めて就職活動の支援を行っているが、多様な学生を受け入れている現状もあり、精神面、持病などを抱えた学生を無事に就職内定まで導くためには、就職担当者と担任との連携をより深めていく必要がある。

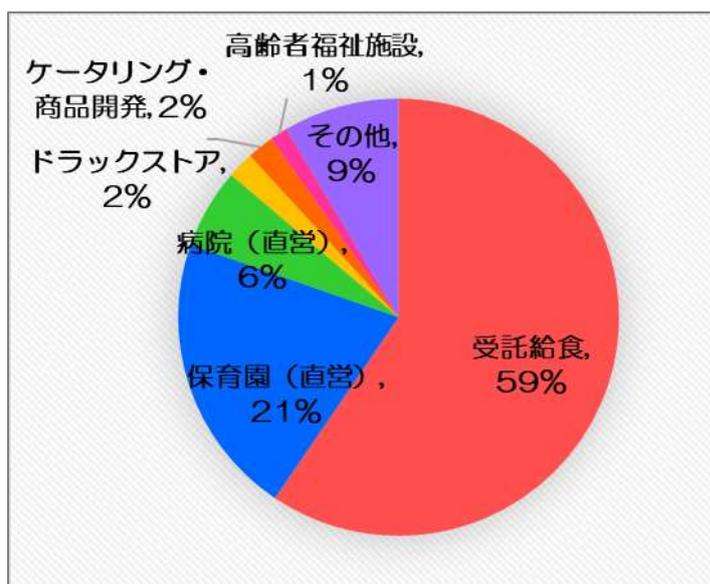
今年度は、在校生の就職全般について取り扱う学内担当者の配置が決定され、担任との共通理解の下スムーズに就職支援を進められた。

現在栄養士業務は売り手市場で就職活動はスムーズであるが、今後の状況も踏まえ就職支援を強化するため、次年度は分掌として教務部内に進路開発部門を組織した。

## ②就職先

学内企業説明会では、企業の人事担当者とともに卒業生が来校することもあり、社会で活躍する卒業生を認識している。長い歴史の中で輩出した数多くの卒業生とつながりを深めていくことが、今後の就職先の確保にもつながるため、今後より一層の関係を深めたい。

以下の図は49期生の就職先業種別割合である。



注) 今回、新型コロナウイルスによる自粛要請などにより、企業や学校の業務が停止になり、受託給食施設などの配属先が決定されていない卒業生も多い。  
このため、受託給食の配属先内訳は出ていない。

## ③説明会・セミナー・面接指導等

### <年間スケジュール>

- 1年次 11月 卒業生懇談会(5社、5名が参加)  
各業界・分野の卒業生を招き仕事への心構えや就職活動における様々な手法、栄養士業務内容の魅力などの話を伺う機会を設ける。
- 2年次 4月 就職ガイダンス  
就職担当者によるこれからの就職活動の概要、ルール等の説明
- 4～6月 学内企業説明会(36社が参加)  
様々な企業の人事の方による校内での企業説明会を実施。  
各企業に対する理解を深める。
- 4～6月 就職セミナー開催

希望就職分野別に履歴書の書き方や面接指導、就職活動への心構えなどの講義・演習を少人数制で実施。

随時実施 就職担当者による就職相談や担任による履歴書・面接・就職指導

就職担当者と企業との信頼関係や卒業生の活躍により、多数の求人を受け、受験生の中でも本校の学生が多数内定を受けているという結果があり、高い就職率につながっている。

また、集団給食業者で組織する公益社団法人集団給食協会と協賛して実施する講習会や食育活動を通じて、給食業界とのつながりを深めている。

## (6) 教職員組織

### ①教員数

	常勤教員等				非常勤 教員
	校長	教員	助手	計	
男性	1	4	5	10	14
女性		15	7	22	15
合計	1	19	12	32	29

\* 令和1年5月1日現在の教員数を記載している。

\* 教員及び助手の人数は、栄養士法施行規則及び栄養士養成施設指導要領が定める要件を満たす者を計上している。

### ②組織編成および要員

#### (a) 組織編成

令和元年度は、卒後支援対策・栄養士実力認定試験対策・自己評価報告書作成対策・カリキュラム検討の作業部会を組織し課題に対応した。

また、若年層の教職員で「将来構想部会」を組織し、学生募集対策を中心に活動した。部会での審議事項や決定事項については主事以上会議にて諮り、全員が共通理解のもと学校を運営している。学校運営を円滑に進めるために、週1回の主事以上会議、月1回の職員会議を開催し、問題意識の共有化と円滑なコミュニケーションを図った。

一方で、個々の抱える業務は多岐に渡り、恒常的に業務過多の状態が続いている。校外実習担当の人員不足や就職支援体制の強化のための人員増についてはこれまでも問題視してきた。2年次の専門分野に当たる実習科目（給食管理実習・栄養教育指導論実習、臨床栄養学実習・応用栄養学実習）と実験科目（食品衛生学実験・解剖生理学実験、食品学実験）においては献立添削やレポート課題点検による恒常的な時間外労働が生じており、人員の確保が必要である。

#### (b) 要員

担任業務を行う教職員は、授業教科担当や実習・実験助手も兼ねている。実習実験科目において教員の他に助手を2名配置するスタイルは、円滑な実習・実験の進行と、授業を受ける学生の支援のためには欠かせない。実習・実験科目を多く設定し、より実践的なカリキュラム編成を取っている本校では、そのための人員・人材の確保は最優先事項である。

令和元年度末には2名の教職員が退職した。1名は体調不良、1名は育児休業明けであったが、育児と介護に専念することが理由である。また、令和2年度10月まで継続して育休中の職員が1名、8月より産育休に入る職員が1名いるため、新規採用職員を2名採用とした。

### ③能力開発

教職員として必要な実務能力や的確な判断力の向上を図り、知識と教養を身に付けた人材を養成するため、「職場研修（OJT）」「職場外研修（Off-JT）」を効果的に組み合わせ、組織的・継続的・意識的に取り組んでいる。

#### <OJTについて>

- ・各課の主事が部下の育成ポイントを把握し、等級ごとの人事評価へ結びつける。
- ・栄養士実力認定試験対策講座1・2において、講義科目を担当させ、専門知識の向上、講義力のスキルアップにつなげた。
- ・実習・実験課では、毎年、学園祭（Nutrition Café）にて提供する野菜スイーツのレシピ開発や、実際の製造・販売を通して、実践力の向上を図った。
- ・体験イベントにおいて、各教職員が担当者となり、企画の立ち上げ・実施計画・発注管理などを行い、個人のスキルアップに繋げた。

#### <Off-JTについて>

外部団体による専門分野における実務に関する研修や、指導力の習得・向上のための研修に積極的に参加させ、研修終了後には報告書を作成して報告・伝達し、全教職員の共通理解を図った。

令和元年度に参加した研修については以下の通り。

研修のテーマ・主催	日時	内容	参加教員
全国栄養士養成施設協会研修会	R1.5.11	日本人の食費摂取基準 2020 の策定状況について、管理栄養士・栄養士の栄養教育モデルコアカリキュラム	若井麻由 大木佑美子
全国栄養士養成施設協会研修会	R1.5.29	・食品衛生法改正と HACCP 制度化 ・脂質異常症最新情報	朝日直人
留学生の違法活動防止のための連絡協議会	R1.6.25	留学生の在籍管理、犯罪の現状、在留管理、違法活動防止の取組、滞在適正化講習、留学生相談業務と留学生対象事業について	後藤かおり
著作権について (公益財団法人 東京都私学財団)	R1.7.17	著作権法の目的、学校教育と著作権について	松本千恵子

公益財団法人 東京都私学財団	R1.7.18 R1.7.28	学校におけるクレーム対応	後藤かおり 高野沙織
専門学校留学生 担当者研修会	R1.11.28	出入国在留管理行政の現状と課題、留学生に 係る出入国・在留関係等申請の実務につ いて、専修学校留学生に対する支援につ いて	飯田美保
東京都奉仕・ボラン ティア教育研究会	R1.12.13	社会福祉活動とボランティア学習	久保校長 土田徹 板垣裕 赤星文月 後藤かおり
人権教育研修 (公益財団法人 東京都私学財団)	R1.12.13	学校におけるいじめを考える	松本千恵子
人権教育研修 (公益財団法人 東京都私学財団)	R1.12.20	アンガーマネジメント	後藤かおり

## (7) 施設・設備

### ① 営造・修繕・購入等を行った施設・設備

時 期	場所・内容・目的
令和元年 5 月	実験室の超音波洗浄器購入
令和元年 6 月	教室へのスクリーンの設置
令和元年 6 月	プロジェクター 5 台購入
令和 2 年 1 月	2 号館 3 階講師室の校長室化 2 号館 5 階 501 教室の講師室化・教職員ロッカー室化 タイルカーペット設置 空調機等スイッチ増設 応接セット・ロッカー等
令和 2 年 3 月	給食室食堂の壁面塗装
令和 2 年 3 月	一般教室（半数）のブラインド入れ替え 残りの半数は令和 2 年度実施
令和 2 年 3 月	給食室食器の入れ替え

## (8) 武蔵野ネットワーク

### ①卒業生との連携

#### (a) 卒業生の社会的評価

令和2年3月卒業の49期生までの卒業生数は14,110名となっている。企業で活躍する卒業生の中には、管理職に就いている年代も多くなった。

本校の卒業生は、コミュニケーション能力が高い・順応性がある・即戦力につながる、といった良い評価を聞く反面、離職率がやや高いという話も聞かれる。

#### (b) 卒後支援

例年卒後支援として、管理栄養士国家試験を受験する卒業生に対して、管理栄養士国家試験受験準備講座を開催している。

また、ブログ「管理栄養士国家試験対策ラボ」を通じて、過去問題の解説、勉強方法など卒業生に対して情報発信しており、令和元年度も科目を限定して実施した。

卒業時には卒業生に対して「管理栄養士になろう！」の冊子を配布し受験に対する意識を高めている。

#### <管理栄養士国家試験受験準備講座>

令和元年は9月7日より全8回実施し、17名が参加した。

参加費用は卒業生3万円。

#### (c) 連携内容

毎年11月に開催する「卒業生懇談会」は、卒業生の協力の下実施しているが、直に就職のノウハウを聞くことができ、就職への意識が高まる機会である。また同時に卒業生と教職員との懇親の場でもあり、卒業生の現状を把握する機会にもなっている。

8月4日の体験入学は「卒業生を招いて」と題し、事業所給食・病院・保育園・福祉施設・学校給食・食品会社等の実際の栄養士業務について聞くことのできる内容とし、栄養士について理解してもらえるイベントとなった。

令和元年度も卒業生が数回、ボランティアとして体験入学に参加している。栄養士の仕事や、本校の魅力について卒業生の立場から体験入学参加者に話をしてもらうことができた。

卒業生懇談会 参加企業（卒業生）と参加人数

卒業期・分野	会社名	1回目参加人数 (名)	2回目参加人数 (名)
48期・事業所給食	栄養食株式会社(みずほ銀行)	28名	28名
42期・保育園栄養士	ポピンズ方南町	36名	39名
46期・食品会社	株式会社 虎昭産業	31名	26名
44期・受託(学校)	フジ産業株式会社	31名	32名
42期・病院給食	IMS 明理会 大和病院	34名	35名

②父母との連携

(a) 保護者の傾向と対応

保護者の抱える事情により連絡が取りづらい家庭も多く、担任は保護者との連絡を時間外に行わざるを得ない状態である。また、学校や子どもに対して無関心で、学校からの連絡を煩わしく感じるような保護者、自分自身の個人的な悩みを延々と担任にしてくる保護者などが多くみられ、担任の負担は大きい。

精神的に不安定な学生に対しては、担任が保護者と連携し連絡を密に取り合いながら、学校生活を送れるよう支援を続けている。

(b) 連携内容

保護者と連携したイベント等は実施していない。

学生の出席状況・成績・メンタル面の支援において、保護者と連携し、連絡を取り合いながら学生の支援に努めた。

## (9) 地域貢献・社会貢献

地域貢献・社会貢献として集団給食協会と協賛している子どもに対する料理教室では、在校生にボランティアを募り、実習の手伝いを通して地域の子どもたちに調理の楽しさを広める取り組みを進めている。社会貢献活動として、給食会社に勤務する栄養士への調理講習会などを担当している。地域貢献活動としては、ジュニアアスリートやシニア世代向けの講習会、小学生と保護者への料理講習会の講師を務めている。

令和元年度も「子ども食堂」のボランティア活動に引き続き参加した。教職員は、ボランティア活動団体と参加学生の間に入りその調整を行っているが、学生と一緒にボランティアに参加することが教職員自身の社会貢献にも繋っている。

イベント名	実施日	実施場所	参加人数	活動種類	内容
椎名町子ども食堂	毎月第2・4木曜日	金剛寺蓮華堂	100名	地域貢献	こども食堂にて夕食準備と片付け
クッキングタイム	年4回	北区志茂子ども交流館	30名	地域貢献	北区・こども支援事業として小学校1～6年生と保護者の料理講習会
夏休みこどもチャレンジ	2019.7.28	本校	20～25名	地域貢献	都内在住小学生対象の料理講習会
東都給食夏季講習会	2019.8.2 2019.8.5	本校	40名程度	社会貢献	東都給食社員向け調理講習会
集団給食協会調理実習	2019.8.27	本校	30名程度	社会貢献	給食会社勤務、調理従事者向け調理講習会
シニア世代の食事	2019.11.15	本校	60名	地域貢献	豊島区体育協会
親子クリスマスケーキ作り	2019.12.22	本校	25名	地域貢献	都内在住小学生対象の料理講習会
ジュニア食育教室	2020.2.7	本校	60名	地域貢献	豊島区体育協会、リレーション協会